
SGI™ 1200 サーバファミリー 問題一覧

本書は、SGI 1200 サーバのインストールまたは使用中に発生する問題と非標準機能の一覧です。解決策または回避策については、各項目ごとに説明されています。

カーソル異常

Linux オペレーティングシステム (OS) のインストール、X ウィンドウの新バージョンのインストール、または Xconfigurator などのユーティリティを使用して X の設定変更をおこなう場合は、以下のことに注意してください。

マウスカーソルがブロックカーソルになります。

機能上、カーソルに障害はありません。ポインタの先端が右上端を指します。このような問題が発生した場合には、以下の回避策を使用できます。ルートとして以下の手順をおこなってください。

1. vi またはデフォルトのラインエディタを使用して、以下のファイルを開きます。
vi /etc/X11/XF86Config
2. "My Video Card" という識別子をもつ、"Device" セクションを検索します。
3. そのセクションに以下のラインを付け加えます。
Option "sw_cursor"
4. 新規の設定を使用して X を起動します。
5. 問題が解決されない場合は、カスタマサポート担当者にお問い合わせください。

メモ： X ウィンドウシステムのインストールまたは設定中に、X を起動するかどうかを尋ねるメッセージが表示された場合は、**no** を選択し、上記の回避策を実行します。サーバにより直接 X ウィンドウシステムを起動させる場合は、手順 1 から 5 で説明された変更をおこなうことは困難です。初めに上記の手順をおこなってから、X ウィンドウを起動させることをお勧めします。

ビデオ RAM およびモニタ解像度の制限

Linux OS を使用する場合、サーバのモニタによりサポートされる最大解像度は 1024 x 768 (8 bit) です。Linux OS では、2MB のビデオ RAM において使用可能な容量は 1MB しかないの
で、解像度が制限されます。サーバ上で使用するために X を設定する場合は、解像度設定のデ
フォルト値が 1024 x 768 (8 bit) 以下であることを確認してください。これは、ビデオ RAM の
1 MB の使用に相当します。X サーバの改訂バージョンは、Linux CD に対応した SGI ProPack
上で使用できます。これについては以下のセクションで説明します。

新バージョンの X サーバ

新バージョンの X サーバは、Linux CD に対応した SGI ProPack 上で使用できます。以下に該当
するファイルを検索します。

```
/README.SGI_1200.Xserver (英語版のみ)  
/SGI/RPMS  
/SGI/SRPMS
```

この X サーバを使用することにより、本書で説明されているビデオディスプレイメモリの制限と
同様に、カーソル異常に関する問題も解決されます。この新しい X サーバの使用に関して詳細な
情報を必要とする場合は、ディレクトリ上の README ファイル(英語版のみ)を参照してください。

2 次キャッシュ使用レポート

Linux の使用に関して、Linux 1.2 以降のバージョンに対応した SGI ProPack を実行できない場
合は、以下に示すシステムレポートが表示されます。0 K (ゼロ K) の 2 次キャッシュがシステ
ム内に存在します。実際には、システムにより 2 次キャッシュは確認され使用されているため、
このレポートは無視できます。回避策はありません。

オプションの PCI Ethernet ポート

Linux オペレーティングシステム (全バージョン) に対応した Ethernet ドライバにより、(シス
テムマザーボードに接続する) メインパネルプレート上に設置されたポート、および (オプショ
ンの PCI ボードに接続する) PCI スロットパネルプレート上に設置されたポートを制御します。
起動手順中に、ドライバにより、*eth#* という名前をもつネットワークインターフェイスが各ポ
ートに対して作成されます。このインターフェイスには、起動手順中にポートが発見される順番に

従い、番号が付けられます（例：eth0、eth1、eth2 など）。この番号は、ポートが存在する場合に、発見される順番を示します。

1. あらゆる 1 ポート PCI Ethernet ボード上のポート
2. システムマザーボード上のポート
3. あらゆる 2 ポート PCI Ethernet ボード上のポート

さまざまなハードウェアコンフィギュレーションにおいて、Ethernet ネットワークインターフェイス (*eth0*、*eth1*、および *eth2*) が、ハードウェアポートへ割り当てられる方法を、以下の図に示します。

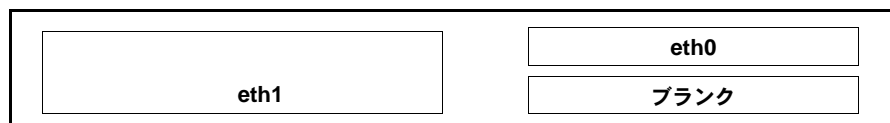


図 1 : 2つの Ethernet ポート : 1つの 1 ポート PCI Ethernet ボード

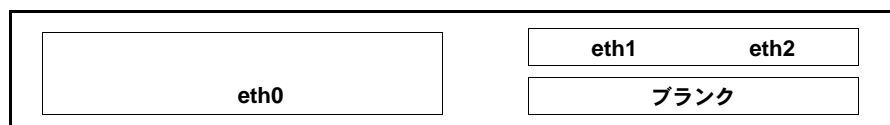


図 2 : 3つの Ethernet ポート : 1つの 2 ポート PCI Ethernet ボード

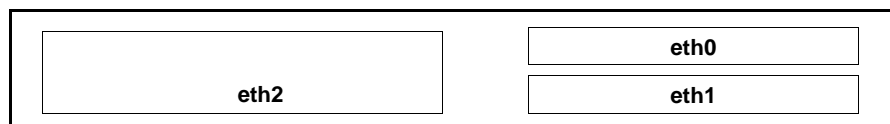


図 3 : 3つの Ethernet ポート : 2つの 1 ポート PCI Ethernet ボード

Linux 1.2 対応 SGI ProPack のインストール上の注意事項

以下の注意事項に目を通す前に、必ず Linux 1.2 以降のバージョンに対応した SGI ProPack に添付されているインストールマニュアルをお読みください。また、必要な場合にそれを参照してください。

デフォルトで X ベースのインストールプログラムが設定されている Linux 1.2 以降のバージョンに対応した SGI ProPack をインストールする場合は、以下の情報を参照してください。(例として、Red Hat 6.1 以降のバージョンの場合について説明します。)本書の冒頭部分で説明されているカーソル異常を解決するために、テキストベースでインストールを実行する必要があります。Red Hat Linux 6.1 の場合、上記の手順を実行するには、初期設定として LILO 起動プロンプトに **text** を入力してください。

最初に Linux ロードプロンプト (LILO) が表示されたら、**text** を入力し、リターンキーを押してください。

一連のテキストモードでダイアログボックスが表示されますので、これに従いインストールを実行してください。

モニタ解像度設定のデフォルト値が 1024 x 768 (8 bit) であることを確認してください。

設定要件に従い、パッケージをロードします。

メモ : X ウィンドウシステムの設定中に、X を起動するかどうかを尋ねるメッセージが表示された場合は、**no** を選択してください。システムによりインストール後に再起動が実行されたら、1 ページの「カーソル異常」で説明されている回避策を実行してください。
